

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地地域連絡会議 令和3年度第1回西表島部会 議事概要

■日 時：令和3年8月17日（火） 14:00～17:00

■場 所：竹富町離島振興総合センター

■出席者（敬称略）：

区分	所属等	役職	氏名	備考	
管理機関	環境省沖縄奄美自然環境事務所	国立公園企画官	浪花 伸和	web	
		野生生物企画官	西野 雄一	web	
		生息地保護連携専門官	皆藤 琢磨	web	
		自然保護官	澤田 史香	web	
		係員	日比野 晃裕	web	
		西表自然保護官事務所	上席自然保護官	竹中 康進	
			自然保護官	内野 祐弥	
		石垣自然保護官事務所	上席自然保護官	山本 以智人	web
			自然保護官	西原 彰浩	web
		林野庁沖縄森林管理署	地域林政調整官	飯星 明	web
	林野庁西表森林生態系保全センター	所長	下田 勝也	web	
		室長	通事 太一郎		
	竹富町世界遺産推進室	室長補佐	仲盛 敦		
		主幹(兼)係長	安生 浩太		
		主査	香月 毅		
		—	高安 壮太		
	竹富町教育委員会社会文化課	課長	根原 健		
	内閣府沖縄総合事務局石垣港湾事務所工務課	課長	山田 文人	web	
	石垣市環境課	課長補佐兼係長	上野 哲夫	web	
	沖縄県自然保護課世界自然遺産推進室	主任	宮川 富士菜	web	
室長		鳥袋 直樹			
主幹		川平 英夫	web		
主任		古田 さゆり	web		
沖縄県観光振興課	主任	宮里 耕平	web		
沖縄県八重山事務所総務課	主任	名嘉真 大貴	web		
沖縄県八重山土木事務所 維持管理班	主任	松川 博宣	web		
	—	富本 萌	web		
地元関係団体	西表島・東部地区(豊原区)	公民館長	新里 つねお		
	西表島・東部地区(美原区)	公民館長	富本 健市		
	西表島・西部地区(上原地区)	—	庄山 守		
	西表島・西部地区(干立区)	公民館長	眞謝 隆一		
	竹富町商工会	会長	屋宜 靖		
	竹富町観光協会	副会長	西表 晋作		
	—	事務局	仲松 英徳	web	
	竹富町ダイビング組合	世界自然遺産担当	笠井 雅夫		
	西表島エコツーリズム協会	事務局長	徳岡 春美		
	西表島カヌー組合	組合長代理	吉田 隆志		
	沖縄県猟友会 竹富町地区	地区長	河合 正憲		
	運輸・交通事業者	西表島交通グループ	代表取締役社長	玉盛 雅治	
		いりおもて観光	代表取締役社長	屋宜 靖	(再掲)
浦内川観光		代表者	平良 彰健	web	
安栄観光		統括部長	平安名 浩文	ご欠席	
八重山観光フェリー		常務	黒島 一博		
石垣島ドリーム観光	船舶運航管理者	藏下 桂			
関連NPO・研究機関	どうぶつたちの病院 沖縄	獣医師	中西 真紀子		
	—	獣医師	廣瀬 布有子	web	
	—	動物看護師	水野 早紀	web	
	トラ・ゾウ保護基金西表島支部やまねこパトロール	事務局長	高山 雄介		
	琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設	准教授	渡辺 信		
—	教授	梶田 忠	web		
オブザーバー	Island Ecosystem Reserch (IER)	代表	河野 裕美		
		課長	喜瀬 涼子	web	
	沖縄観光コンベンションビューロー 国内プロモーション課	主事	仲里 樹	web	
		コーディネーター	川平 楓子	web	
		コーディネーター	照屋 大地	web	
		コーディネーター	賀数 恵理奈	web	
		コーディネーター	上間 真莉	web	
		主査	屋宜 菜津子	web	
		主査	天久 めぐみ	web	
	— 受入推進課	コーディネーター	又吉 梨紗	web	
		主任	福地 徹	web	
— 沖縄県情報基盤整備課	技師	玉城 武	web		
	理事	松井 孝子			
運営事務(受託者)	主査	西村 大志			
	研究員	日高 美美			
傍聴者	10名(web) + 報道1名				

■議 事

1. 西表島部会設置要綱の改定について
2. 世界遺産委員会の審査結果について
3. 要請事項等への対応方針について
4. 行動計画の進捗状況について
5. その他

■資 料

- 資料 1 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地地域連絡会議
「西表島部会」 設置要綱
- 資料 2 第 44 回世界遺産委員会拡大会合における「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」
の審議結果について
- 資料 3－1 要請事項等への対応方針
- 資料 3－2 来訪者管理計画の取組項目の実施状況
- 資料 3－3 来訪者管理計画の検討状況
- 資料 4－1 西表島行動計画の事業進捗状況とりまとめ結果（令和 3 年 4 月現在）
- 資料 4－2 西表島行動計画の事業進捗状況図（令和 3 年 4 月現在）
- 資料 5 モニタリング計画の概要及び評価シート作成について
- 参考資料 1 西表島行動計画
- 参考資料 2 西表島の観光管理のための取組について
- 参考資料 3 西表島行動計画に係る完了事業一覧（令和元年度までに完了した事業）

■議事概要

議題 1. 西表島部会設置要綱の改定について

- 沖縄県より「西表島部会」の設置要綱の改定について、資料 1 に基づき説明が行われた。
- 質疑応答の概要は以下の通り。
 - ・構成機関名について、西表エコシステムリサーチではなくアイランドエコシステムリサーチなので訂正をお願いしたい。（IER 河野）
- 上記の修正点の他、設置要綱の変更について異議のないことを確認し、設置要綱の改定が承認された。

議題 2. 世界遺産委員会の審査結果について

- 世界遺産委員会の審査結果について、環境省より資料 2 に基づき説明が行われた。
- 質疑応答の概要は以下の通り。
 - ・要請事項以外の部分で、地域住民の参加や地域に対する取り組みについて考えていることがあれば、教えていただきたい。特にコロナの状況で、傍聴も難しいと思うが、何が話し合われているか地域の人々になるべく共有していただきたい。（やまねこパトロール 高山）
- 今回も傍聴は受け付けており、事前に申し込みいただいた 10 名の方にオンラインで傍聴していただいている。（プレック 松井）
- これまでの世界遺産に関する取組は、推薦書を提出するというところでどうしても科学者と行政のやり

取りが先行していた。これからは管理のステージになり、地域との議論が重要になってくる。今後、地域連絡会議や科学委員会（将来的にはWeb会議が中心）が開催される予定である。関心のある人には議論に参加していただき、引き続き環境保全や管理についてご協力をお願いしたい。地元の人に対して、分かりやすい言葉で価値の普及啓発を強化していきたいと環境省としては考えている。地域住民の方への説明を現場のレンジャーを通して今後強化していくつもりである。（環境省 浪花）

- ・資料2の要請事項「観光管理」について、「観光客の訪問レベルを現在のレベルに制限する」と書かれているが、現在のレベルとはいつの時点を基準にしているのか。（商工会 屋宜）
- IUCNには来訪者管理基本計画をもとに観光客数の推移が伝わっていると思う。おそらく、最も観光客の多かった時点より減らすことを要請しているのだと認識している。（環境省 浪花）
- 西表島の観光客数は2度のピークがあったが後の方のピークのことか。（商工会 屋宜）
- 一度目の推薦の時に、観光管理の基本計画を作るという宿題を出されて、西表島では来訪者管理基本計画を作成した。IUCNはそれを見て言っていると思う。来訪者管理基本計画では、過去の入域観光客数の推移をもとに、年間33万人を一つの基準値としている。（沖縄県 島袋）
- 年間33万人が求められる訪問レベルであると理解した。（商工会 屋宜）

議題3. 要請事項等への対応方針について

○「河川再生」「ロードキル」に関して環境省から、「森林管理」「観光管理」に関して沖縄県から資料3-1に基づき説明が行われた。また、来訪者管理基本計画の取組や検討状況についてプレックより資料3-2、資料3-3に基づき、説明が行われた。

○質疑応答の概要は以下の通り。

- ・1,230人の基準値を設けているが、具体的に実際誰がどのようにコントロールするのかということまでは検討されていないのか。（西部地区 庄山）
- 混雑カレンダーの作成により、観光客の方に間接的ではあるが分散を働きかけようとしている。法的に規制することはできないため、このようなソフトなやり方で進めていく方針である。観光事業者や船会社等と協力し、実効性を高めていきたいと考えている。（プレック 西村）
- 前回の西表島部会では混雑カレンダーについて多くの課題を指摘され、改良をしてきた。引き続きアイデアがあればご意見いただきたい。（沖縄県 島袋）
- ・観光案内人条例があるが、免許を受けずにガイドを行っている人がいると聞いている。それはどういう理由なのか教えていただきたい。（西部地区 庄山）
- 観光案内人条例に基づき、現在101事業者に観光案内人の免許が出ている。一方で数事業者について現在審査中という状況になっており、案内人条例に基づき、今までガイド事業をやっていた事業者は審査中は業務の継続が可能という経過措置が適用されている。審査に時間がかかっている理由は、今までガイド事業を行っていた事業者に対し、突然ガイドの停止を求めることが法的に問題ないか検討しているためである。法律の専門家や地元住民も参加する竹富町の観光案内人条例審査委員会で議論し、竹富町の顧問弁護士とも相談しながら、免許を出すか否か、出すとすればどういう条件にするか等、現実的に取りえる選択肢について、慎重に検討・審査している。速やかに審査を進めていきたい。（竹富町 安生）
- ・ガイドをつけずに入ってくる人が多い印象だが、どうお考えかお聞きしたい。（西部地区 庄山）
- 観光案内人条例はガイドの同行を義務付けている条例ではなく、ガイドの登録を行うものだが、ガイドの同行が望ましい地域については西表島エコツアーリズム推進全体構想の中で特定自然観光資源に

位置付ける5箇所に関してはガイド同行またはレクチャーを受けた人しか入れないように調整している。昨年秋に推進協議会を開催してエコツアー全体構想の案を作成し、その後ワーキンググループで細かな内容の議論をつめて、今年1月にエコツアー全体構想案の取りまとめを行った。現在、全体構想の認定のために国と協議を行っており、二段階に分かれた協議のうち、一段階目の地方出先機関との協議は問題なく終了しており、二段階目の本省の回答待ちの状態である。(竹富町 安生)

- ・混雑カレンダーについて、ある程度の効果は期待できるが、限界があると感じている。今できているくらいのもので、これ以上の力を割かなくてもよいのではないか。今の状況を見ると、コロナに関わらず個人の都合で来たい人はきてしまう。IUCNが求めているオーバーフローしたときの対応は検討しているのか。(琉球大学 渡辺)

→オーバーフローしないように先手の手段として、混雑カレンダーを活用、観光エージェントの方に協力を依頼するなどの対応を検討している。オーバーフローしたらどうするかまでの対応は現時点ではできていない。今後IUCNからの宿題への対応については検討していく。(沖縄県 島袋)

→予約の段階で、入島IDのようなものを発行するシステムにしてはどうだろうか。例えば入島IDがないと、西表島のツアー等の予約ができない等の仕組みを取り入れることは効果的だと考える。(琉球大学 渡辺)

- ・資料3-2のモニタリングによる順応的来訪者管理について、フィールドごとのモニタリングが必要ではないのか。特に天候や時期別にフィールドにどのような負荷がかかるかというデータを1年間かけて科学的に調査していただくと、人数制限にも有効な情報が得られると考えられる。(商工会 屋宜)

→フィールドのモニタリングの必要性はおっしゃる通りである。現在でも「利用に伴う自然環境への影響把握調査」(資料3-2、p3)は行っている。利用者カウンターを十数か所設置し、いつ利用者が何人入ったかという人数の調査に加え、フィールドに打った杭の場所での植物調査(植物の変化、利用者増加で道が広がっていかないかを調査)、滝つぼの魚類調査、水質調査、環境DNA調査を行っている。今後も必要なことは関係機関と連携して進めていきたいと考えている。(環境省 竹中)

- ・西表島部会の元に設ける作業部会の専門家とは資料3-1の3ページに記載してある「専門家候補」という理解で間違いはないか。そうすると、資料3-1の3、4ページのロードマップの専門家ヒアリングは作業部会とは別の扱いなのか。(猟友会 河合)

→専門家候補として西表島エコツアーリズム推進協議会のメンバーとそれを補完する観光管理の知見を持った専門家を挙げているが、全員を作業部会に入れると遠方の方もおり調整も困難なので、この中から一部の方に作業部会への参加を依頼するつもりである。その他必要な方の意見はヒアリングで対応していく。専門家候補は両方合わせた候補者とご理解いただければと思う。どの先生を作業部会に入れるかは、今後事務局での検討や本人との調整を行って決める予定である。(プレック 松井)

- ・法定外税を導入した場合の効果、現在の導入予定について、教えていただきたい。(猟友会 河合)

→入域税という形で西表に来る人からお金をいただき、そのお金を自然環境保全や施設整備に使用するという考え方について、環境省と竹富町で連携して検討している。それによる来訪者数抑制の効果については、ゾーントラベルコスト法によると、入域料がかかる時に西表島に来なくなる人の割合は、500円であれば約2.5%、1000円であれば約5%、1万円であれば約40%と計算されている。お金をいただくことで来訪者を減らすことは現実的ではなく、いただいたお金を自然環境保全や施設の管理に使っていくことが効果的だと考えている。検討状況としては、環境省で有識者と勉強会を行っており、協力金よりも安定する税金とすること、島民の方からは徴収しないことを方針としている。税金徴収

で島民を除外する事例が今までなかったが、広島県の宮島でそのような仕組みが検討されており、現時点で、総務省の同意も取れて条例文も作成された段階である。今後は、税金を取るためには町の条例を作成することになるので、町としてそれをやっていくのか、西表だけでやるのか竹富町全体でやるのか、どのような徴収システムにするかを詰めていく必要がる。竹富町では現在課を横断した勉強会を行い、町としての方向性を定めるための議論を進めている段階である。(環境省 竹中)

・滞在型観光への移行とあり、宿泊率 22%以上を目標としているが、これは現在の宿泊施設の稼働率を 22%にもっていきたいということなのか、今後宿泊施設を増やすということなのか教えていただきたい。(猟友会 河合)

→宿泊率 22%という数字に関しては、島内の宿泊施設の稼働率ではなく、島に入った観光客全体の中で島内に宿泊した人の割合という意味である。日帰りの人が 78%、一泊以上宿泊した人の割合が 22%という数字が現在の状況であり、その数字を上げていく方針である。(プレック 松井)

→町の世界遺産推進室で数年前から竹富町観光協会と協力して滞在型観光の推進を行っている。今後、具体的な数値目標を追いかけ、滞在型観光に結び付けられるような事業を行う方針である。ここ数年は西表以外の島でも滞在型観光の推進を進めている。今後は西表の中での既存の観光資源をしっかりと活用し、町の事業としても滞在型観光を推進していくつもりである。(竹富町 通事)

・住民生活への影響として水問題があり、滞在型で多いレンタカーの使用がロードキルにつながる可能性もある。野放図に滞在型観光を進めれば良いというわけではないと思う。目標値、見通しをはっきり示してほしい。現在集合住宅やバンガローも増えており、住民に貸し与えているものを観光用に変えるという可能性もある。それについても今後の計画をしっかりと作っていただきたい。(猟友会 河合)

・自然環境のコアエリアへの観光客が入ったときの影響について、どのようにして影響の有無を判断するのか。知床では、主な影響として道幅が広がるという変化が生じているが、初めて行った人には変化がわからない。西表島でもピナイサーラの滝つぼの空間などは明らかに踏圧で以前より広がっている。ゴミが増えている、木が倒れている等の状態は把握できるが具体的にそのような形で影響が現れるとは限らない。コアエリアに影響が出ているかの評価は難しいと考えられるが、皆で共通の認識を持つようにしてほしい。(琉球大学 渡辺)

→コアエリアに関する調査は環境省がモニタリング調査を行っている。何が環境省や竹富町が考える「影響」なのか、その「影響」についてガイドや島民に共有されているのか、共有するような努力はされているのか。西表島の河川の利用も以前は大きな河川だけだったのが小規模な河川にも広がり、さらに利用者も増えてきている。利用者が増えると数年で道ができてしまう。何が影響なのか、どこまでの利用がストレスになるのかということ、ガイド等に共有するようにしてほしい。(IER 河野)

→環境省として、杭を打ってその場所から写真を撮って変化を把握するなどのモニタリングはごく最近実施を始めており、今後どう変化していくかを記録していくつもりである。フィールドに関しては、エコツアー全体構想の中で、モニタリングの項目や、評価委員会を作って評価していくことなどが記載されている。環境省だけでなく、普段フィールドに出ているガイドも共にモニタリングを行うことで変化を共有し、一緒に対策を行っていく方針であり、現在カヌー組合なども一緒にモニタリングする仕組みを作ろうとしている。しかし、ガイド全員にその意識を伝えきれているかに関しては課題がある。今後、ガイドの集まる WG 会議での周知やガイド講習等を行い、共有していく予定である。(環境省 竹中)

→今述べられたような環境省の調査を、ガイドが免許を更新するときに年に 3 回以上実施しなければな

らないといったような形にできるとよい。(琉球大学 渡辺)

→モニタリングや保護活動に協力することを認定ガイドの更新の条件にできればと考えている。モニタリングして守っていく活動を連携して行っていきたい。(環境省 竹中)

・地元の人が家族や友人とフィールドに行った際に、ガイドがいないと立ち入り禁止だと注意されたという話を複数聞いている。そもそも世界遺産とは何か、それに伴う規制が何なのかきちんと伝わっていないと感じる。世界遺産になってしまったから、以前は行けていた場所に行けなくなってしまったという勘違いが生じている。住民には世界遺産になったことを喜ばしく思っていない方も多く、世界遺産に興味がない人もいる。関心の低い人に聞いてもらう工夫が必要と考える。(琉球大学 渡辺)

→おっしやる通り難しい問題である。小中学生にも普及啓発を検討しており、そこから広がっていけばと考えている。(沖縄県 島袋)

・来訪者管理基本計画の目標に「観光による環境・住民生活への影響を抑制するとともに、観光による地域社会への波及効果をさらに広げ」とあるが、非常に矛盾していると感じた。基本的な考え方は保全と規制に関することになっている。観光客をある程度制限するのはいいと思うが、せっかく世界遺産になったのでその価値をわかってもらいたい。また、それによる島民の収入や生活の改善という視点も重視していただきたい。周遊型観光は右肩下がり体験型観光が増えていくと考えられるが、そうなったときに島民の負荷が大きくなる上に、今の様子を見ていると収入が増えたり生活が豊かになる期待もあまり持てない。現状は、業者が増えて、単価が下がっている印象であり、考え方と目標が逆行していると感じている。業者が増えると島民も増え、将来的に島民の規制も発生するのではないかという懸念がある。また、西表島のキャパシティを考えたときに登録可能な業者の数について、どう考えているのかお聞きしたい。(商工会 屋宜)

→数そのものの規制まで行ってよいのかわからない。経済的に地元の良い影響を与えないといけないということは気にしており、単純に観光客数を増やすのではなく、滞在時間を長くすることで単価を上げていくことや、季節間の平準化、雇用の問題をクリアできる体制づくりなどを推進していきたい。また、入域観光が観光事業者等にどのような影響を与えるのか把握したい。宿泊事業も単価や滞在日数が伸びていかないことが課題と言われており、どの程度地元の産品を使っているのか、雇用を生み出しているのか等を含めて見直すつもりである。単純に数を追うことは考えておらず、そのようなところで評価や制限をすることも考えていない。(竹富町 通事)

→上限36万人で、その中で業者が増えると単価は下がってしまう。そうすると質の低下がひどくなる。すぐに数字を決めてほしいわけではないが、5年先、10年先の数をコントロールしていかなければ質の高い観光はできないと考える。(商工会 屋宜)

・初めに説明のあった通り、来訪者管理計画の改訂等について作業部会を設置して検討を行うことについて了承を得たい。また、作業部会の体制等については事務局に一任していただきたいがよろしいか。(沖縄県 島袋)

→【一同合意】

議題4. 行動計画の進捗状況について

○沖縄県より事業進捗状況の全体的な説明について、資料4-1、資料4-2に基づき行われた。

○続いて事務局の各機関(環境省、林野庁、沖縄県、竹富町)より、特徴的な取組みや補足事項の説明が行われた。

○質疑応答については、議題5の後にまとめて行うこととされた。

議題5. その他

○モニタリング計画について、環境省より資料5に基づき、説明が行われた。

○西表財団の設立に向けた動きについて、環境省より説明が行われた。

○その他の意見交換及び全体を通しての質疑応答の概要は以下の通り。

- ・沖縄県情報基盤整備課から伺いたい。遺産地域内は携帯電話がほとんど繋がらない場所であると考えている。今後、入域者の安全・安心の確保等の観点から通信エリア化を希望する、もしくは別の観点から希望しない等の地域関係者の要望を通信事業者に伝えることができる。もし、そのような要望があればお聞かせいただきたい。(沖縄県情報基盤整備課 福地)
- ・今年度実施予定の事業について共有する。来訪した時に心がけてもらいたいことなどの情報を事前に伝えたいという声を聴いていたので、今年度は、そういったことを発信できるオンラインツアーの事業を予定している。概要としては、地域の事業者が普段提供しているサービスや地域の魅力をオンラインツアーを通して発信する仕組みを作るまでのサポートを行う事業である。年度内にプラン化してオンライン旅行会社等で販売することにもつなげていきたい。皆様に情報提供等のご協力をお願いすることもあると思う。また、我々の方で世界遺産の特設ウェブサイトを作っており、そちらでも県外の方に発信したい内容等を掲載していければと思っているので、掲載してほしいことがあればご連絡いただきたい。この事業は沖縄県の観光振興課から受託して実施しているので、観光振興課に連絡してもらっても構わない。(沖縄観光コンベンションビューロー 屋宜)
- ・西表島西部の上原港の赤土流出の問題について、10年以上要望をお伝えしているが改善しない。最も大きな原因は上原地区の農地改良である。雨が降ると青い海が赤くなり、イメージ的にも悪いので至急改善をお願いしたい。また、エンジンの廃油の処分所が八重山にはない。以前は沖縄本島のホテルと提携してボイラーで燃やしていたそうだが、コロナ禍で需要がなくなりその方法で処理できなくなったらしいと聞いている。車や船に乗るなど島で生活していると大量の廃油が出るので処分場をつくっていただきたい。西表の小さな業者では山に廃油を捨てているケースもあり、重大な問題である。また、世界遺産に登録されたが、西表は他の島と異なり、住民の過半数が世界遺産登録について好ましく思っていないことを忘れないでいただきたい。(竹富町ダイビング組合 笠井)
- 赤土については担当の環境保全課に対応するよう伝える。その他についても関係者で情報共有して対応したい。(沖縄県 島袋)
- ・情報基盤整備課に依頼したい。数年前に大見謝川で痛ましい事故があり、カヌー組合にも応援要請がはいった。その際、電波が通じないことで対応が遅くなったことがあった。それを機に役場に改善を要請しているが、まだ実現しておらず、沖縄県からもお伝えいただきたい。(カヌー組合 吉田)
- 話は聞いており、竹富町とも相談している。大見謝川周辺の電波状況の改善については、自然遺産の中ということもあり、地域の要望を確認しながら取り組んでいきたい。(沖縄県情報基盤整備課 福地)
- 個人客が今後増えることも想定して再発を防ぐためにも早急に整備してほしい。(カヌー組合 吉田)

以上